広報しろね

第34号　昭和39年3月10日

発行所　白根市役所
編集　企画審議室

市の戸籍

総世帯	6,194		
人口	35,043		
男	16,665		
女	18,378		
(39.1月中)			
出生	48	婚姻	75
死亡	32	離婚	6
転入	69	転出	81

◇ ☆新産業都市へ加入、国道の開通、高校の設立など昭和38年度はわたくしたちのまちの歴史の大きな転機が訪れてきたようにおもわれます。明るい未来への足場としての38年度だともいえるかもしれません。　☆38年度の市の主な事業をふりかえってみるのも有意義なことではないでしょうか。題して〝足あと〟　【題字〝足あと〟は吉沢市長】 ◇

【写真】 市の工場地帯と新国道八号線（点線）

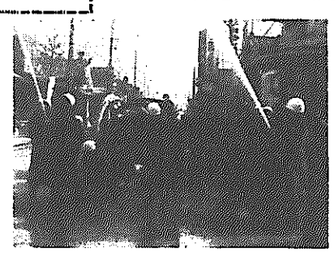
市政のあらまし

38・4 県・市議会議員選挙
5 白根浄水場、発電機が完成
6 農業構造改善事業の計画地域に指定
高松宮ご夫妻来市
自家用天然ガス採取規制条例を可決
産業厚生会館決まる
新潟鋼機工場を誘致
7 市営ガス事業決まる
9 新潟地区新産業都市に加入
ガス水道局の新庁舎が完成
白根高校第一期工事が完成
大鷲診療所を設置
古川保育所を建築
10 北部水道、新ろ過池が完成
ゴミ処理場の起工式行なわれる
高井保育所を建築
消防署を設置
1 新国道・新潟〜白根間が開通

国道の開通、新産都市へ
発展へのスタート台

市内のド真中を突走る新国道八号線、鉄道から見放された白根市にとって、新国道は市の未来の構図に大きな影響を与え、市民も完全開通に期待しているのです。新国道工事は昭和三十六年十二月総工事費十四億四千万円、四年計画の完成予定で着工、大野—白根が未舗装のまま一月に開放され、次いで新飯田—白根まで今月末には開放される予定です。すでに昨年九月、白根市は新潟地区新産業都市への参加が決定しており、灰色の市の未来にも淡いバラ色の光がさし込んでいるようです。が、現実は新産都市になったからといっても手放しで喜べないような気もします。

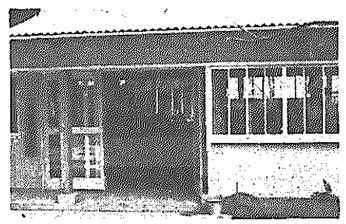
しかし国道の開通と新産都市への参加は白根市の飛躍のエースであり、白根市史に両期的なできごととして記録されることでしょう。そして新しいスタート台に立った白根市は、この二つのエースをフルに活用し、脱皮する白根市の基礎をつくることが、いまの世代の使命なのかもしれません。



北部浄水場を拡張
ガス水道局を新設

白根上水道に工事費九百五十万円で出力一〇〇キロワットの一五五馬力一台の新発電機が完成、停電時でも給水はOK。また北部浄水場では工事費五百六十万円で、ろ過池の拡張工事に着手、九十三・八立方㍍〜の鉄筋コンクリート造りの新ろ過池が完成、一日千百二十五・六トンの水をろ過することができます。

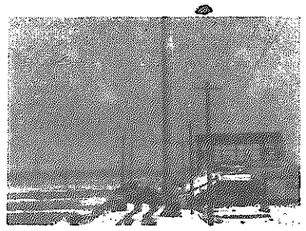
四月一日白根北部、茨曽根、新飯田の四上水道が事業のスムースな運営を図るため画期的な統合をし、市内上下諏訪ノ木地内に総工事費二百二十三万円、鉄筋平屋建てのモダンな新庁舎を建築——



【写真】（上）新ろ過池（下）ガス・水道局の新庁舎

完成近いゴミ処理場
焼却能力は三倍の十五トン

日に五トンにものぼるというゴミ排出量。これは白根地区だけのもので、これが市内全域となると一日三十トンに達すると推定されその処理に頭痛のタネ。老朽化したいまのゴミ焼場ではとてもさばききれず、昨年十月より鍋潟地内に総工費約千五百万円で、鉄筋二階建て自然通風式焼却炉処理能力一日十四〜十五トンのゴミ処理場が近く完成する予定です。市ではゴミ収集方法の説明会を二月十七日をかわきりに四回開きましたが、集まった人は一回目七人、二回目九人、三回目五人、四回目四人、合計わずか二十五人。そこで第二回目の説明会を三月十日諏訪ノ木保育園、十一日白根保育園、十二日能登神社で嘱託員や隣組長の出席を求め開かれました。いままではゴミ箱から直接清掃手が集め、四人まで五十円五人以上八十円でゴミを集めた家庭のみ料金を徴収していました。県の他市では大部分が、市でゴミを無料で集めているようですが、白根市の場合は、四人まで五十円、五人以上八十円の料金がとられ、その上、各家庭が、定時的にくるゴミ収集の運搬車までもちだすというもの……。



今月十日から開かれる三月定例市議会で、清掃条例が上提され可決されれば、自家ゴミ処理の認可をえない家庭は、ゴミをださなくても全部料金が徴収され市民の関心を呼んでいます。

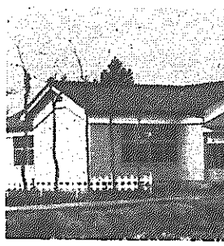
【写真】完成急ぐゴミ処理場

産業会館、中旬に着工
完成予定は十月

三十八年六月定例市議会で市内魚町諏訪神社敷地に産業厚生会館を建設することが本決まりとなりましたが、地元氏子の一部に諏訪神社の存続を願う声もあって、白根神社への合社が危ぶまれ、そのなり行きが注目されていました。さる一月二十二日東京神社庁から合社の承認がおり、二月二十日合社も終わり関係者、市民をほっとさせました。市には市民の集会場となる建て物がまったくなく、集会といえば市役所議場、学校、保育所などが利用され、使う方も使われる方も不便で会館の建設が強く望まれており、その悲願が近く実現するわけです。

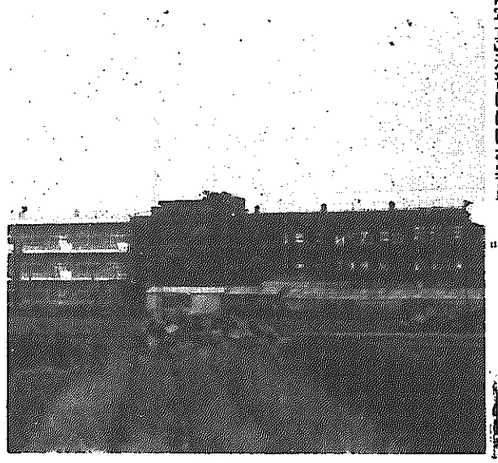
建て物は一階五六〇平方㍍、二階六三〇平方㍍、三階（一部吹き抜け）二一〇平方㍍、四階二一〇平方㍍で、延べ面積は約千六百㍍の鉄筋コンクリートのもの。八百人以上収容できるホールをはじめ会議室、産業相談室、図書館、結婚式場、食堂などわたくしたちの生活に関係の深いものばかりで、利用度が高いように設計されています。

工事費は約四千五百万円で、白根商工業協同組合が主体。三千万円は厚生年金還元融資で、一千万円は市中銀行から借り入れ、五百万円は寄付によります。また借り入れ金の返済は三十九年から五十八年度までの二十年間で返すことになっており、工事の着工は三月十五日ごろからとりかかり十月二十日までには完成する予定です。



高井・古川保育所を新設

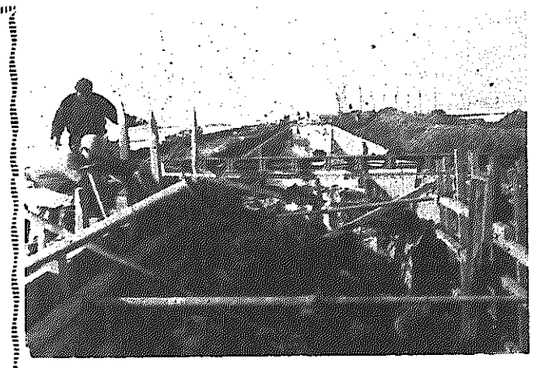
共稼ぎの多い昨今、保育所増設の声が高まっていますが、市内に保育所が十三、季節保育所が十五そこに入所する幼児は約二千人で三十八年度に古川保育所＝工事費百二十万円、高井保育所＝百万円の木造平屋建てが新築さ〜れました。また、東笠巻地内に大鷲診療所が設置され、工事も急ピッチに進み近く完成、開業の予定です。



【写真】 高井保育所

市の新エネルギー源に
期待される白根高校

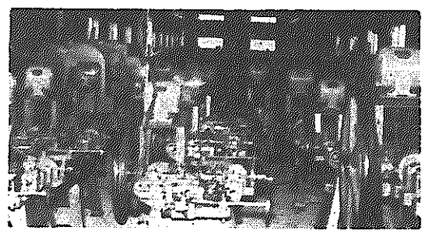
市民、待望の県立白根高等学校が昨年四月、生徒二百十二人を募集し仮校舎で開校、九月に第一期工事鉄筋三階延べ約千五百平方㍍が白根地区落口に建てられ十月に引き越しました。二期工事も順調に進み三月末には完成の予定。あとは第三期工事で体育館、特別教室ができれば白根高校も名実ともに完成するわけです。ことしは二百八名の募集で競争率も一・二九倍、ほぼ県の平均競争率並み。この高校から巣立つ若い世代が郷土建設の新しいエネルギーとして活動するとき、白根市の夢が実現するのです。

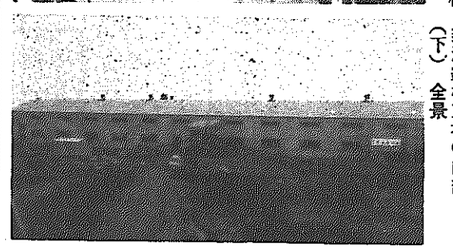


【写真】モダンな白根高校

実現した工場誘致
—下塩俵に新潟鋼機が進出—

根岸地区下塩俵に大手企業の新潟鋼機が進出、田園都市〝白根〟に昭和十年七月理研電線白根工場誘致をしていらい二十八年ぶりのできごと。また新飯田に村山洋食器新飯田工場が、茨曽根に山崎ヒューム管茨曽根工場が、誘致され市の発展に大きなプラスと、うれしい話です。





【写真】（上）新潟鋼機工場の内部（下）全景

消防署を設置

十月五日新しく消防署ができ、夜間でも消防自動車が即時出動。また新潟市の吉川恒吉さん（52）が新鋭消防車を寄付、一段と消防活動が強化されました。

【写真】演習にはげむ署員

最大沈下、1.6メートル
ついに天然ガスを規制

市の将来に暗いカゲを投げかけていた地盤沈下は、各方面に大きな被害を与えていますが、この被害を防ぐための特殊排水事業補助一億三千七百十三万円の使用をめぐり、自家用天然ガス採取規制にまで波及し、市民の関心は高まるばかり。六月市議会で賛否論争が激突、市民の見守る中で、自家用天然ガス採取規制条例が可決され、話題を投げたガス問題にピリオドが打たれました。

また、ガス採取規制条例で市民に与える影響が大きいと市営ガス事業に着手、工事も桜町、砂押、魚町など数町内が埋設を終わり、ガスの供給も一部ながら六月ごろから始まる予定で、ツルハシの音に明るい希望がみなぎっており〝おいらの台所もいよいよ市営ガスが！〟とママさんたちにはうれしい話です。

【写真】（上）用水路かさあげ改修工事（下）市営ガス工事現場

□住民・事業・所得税の申告を

住民税、事業税の申告期限は三月二十一日で、得所税は三月十六日です。さきに配付しました〝ぜひ知ってもらいたい住民税の申告〟の説明書のとおり、申請をしないといろいろの控除ができなくなりますから期限までに必ず申告してください。また、所得税や事業税の申告をするとき、住民税の申告も同時に受け付けますから、ご利用ください。